

『2022年度 総会・第1回研究会のお知らせ』(最終案内)

会員の皆様には益々ご健勝のことと存じます。

さて、ご案内のとおり、全国大学音楽教育学会 関東地区学会 総会・第1回研究会を、下記のように開催いたします。奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

現在のところ対面による開催予定ですが、状況によって変更があるかもしれませんのでご承知下さい。

記

2022年度テーマ これからの音楽教育の行方 ～ICT活用の可能性を考える～

- 1 日時 2022年6月11日(土) 13:00～16:45
- 2 会場 ヤマハ株式会社(東京高輪)地下会議室 港区高輪2-17-11 TEL:03-5488-6611  
(都営地下鉄浅草線 泉岳寺A3出口右へ徒歩1分)
- 3 日程 12:30～13:00 受付  
13:00～13:30 総会  
13:40～15:10 講演 松居辰則氏(早稲田大学人間科学学術院教授)  
講演タイトル  
「教育・学習におけるICT活用の可能性 ～人と技術の高度な共生をめざして～」  
15:10～15:30 質疑応答  
15:45～16:45 研究発表
- (1)「ピアノ初学者の個人練習支援の可能性～これまでのアプローチを総合して～」  
◎田中功一(放送大学)、小倉隆一郎(元 文教大学)、林 麻由美(東京福祉大学短期大学部)、  
鈴木 泰山(株式会社ピコボ)、辻 靖彦(放送大学)
- (2) 保育者養成における子どもの歌の発声について～演習授業で用いる発声指導法を考える～  
松田扶美子(有明教育芸術短期大学)

総会開催のため、同封の出欠葉書の返信を6/3必着でお願いいたします。

欠席される方は委任状に捺印の上ご投函ください。また、名簿記載に変更がある方もお知らせください。

- 4 研究会参加費 会員1000円 一般参加1500円
- 5 情報交換会 17:00～19:00 会場:未定 会費:5000円(税込)程度

★役員会を10:00より行います。役員の方にはご参集ください。

## 【講演要旨】

教育・学習における ICT 活用の可能性 ～人と技術の高度な共生をめざして～

松居辰則（早稲田大学人間科学学術院教授）

ICT（Information Communication Technology）は私たちの生活の中の様々な面で利活用され、ICTの進化とともに私たちの生活様式も変化し続けています。このことは、教育・学習の面においても例外ではなく、ICTの利活用が教育・学習の量的・質的变化をもたらし、更なる変化が期待されています。特に、Society5.0と呼ばれる社会様態においては、教育・学習の内容や方法、そして育成されるべき能力においてもこの社会様態に即したものが求められます。中でもAI（Artificial Intelligence）技術の実用化と教育・学習に関わる大規模なデータの扱いによる影響は大きいことが予想されます。そして、その影響は教育・学習に関わる全ての人たちにとって良いものでなければなりません。本講演では、AIとは何か、AIは何ができるのか、という点に関して人間ならではの能力との対比で考え、教育・学習におけるAI研究（AI in Education）の発展とその先にあるSociety5.0における教育・学習における人と技術のより良き共生の姿を議論します。

## 【研究発表要旨】

(1) 「ピアノ初学者の個人練習支援の可能性～これまでのアプローチを総合して～」

◎田中功一（放送大学）

小倉隆一郎（元 文教大学）

林 麻由美（東京福祉大学短期大学部）

鈴木 泰山（株式会社ピコラボ）

辻 靖彦（放送大学）

発表者らは保育士・幼稚園教諭養成校のピアノ授業における初学者の学習支援方法を検討してきた。内容は、①**デジタル教材の活用**：教員の模範演奏による視聴覚教材、②**演奏分析**：音の強さやテンポなど、学生とその教員の演奏情報をグラフで比較する見える化（独自開発のVSPP）による演奏状況の把握、③**ポートフォリオ**：①と②とデジタルノートを組み合わせた学習の記録を教員と共有、④**個人練習の内容解明**：教員が把握しにくい個人練習の実時間、部分練習の内容、曲目の推定の把握、以上順次進めてきた。現在進行中の④では、学習者の演奏データと楽譜情報のマッチングをヒートマップで示すものだが、色の濃淡から曲目の推定、部分練習の箇所、及び演奏のおおまかな精度を把握する可能性がある。初学者の指導には時間を要するため、①～④の方策によりピアノ技能が効率よく習得できれば、本来目指すべき音楽表現向上の指導に時間を充てられる可能性がある。

